

東京スカイツリータウン®

建物諸元

所在	東京都墨田区押上一丁目1番2号
主用途	電波塔、商業施設、事務所
敷地面積	36,844 m ²
延床面積	227,520 m ²
階数	地下3階、地上31階
竣工年月	2012年2月
事業者・所有者	東武鉄道株式会社、東武タワースカイツリー株式会社
設計会社	株式会社日建設計
施工会社	東街区：大林・株木・東武建設共同企業体 西街区：大成・東武谷内田建設共同企業体 タワー街区：株式会社大林組
管理会社	東武タウンソラマチ株式会社
URL	http://www.tokyo-skytreetown.jp
テナント数	約350社(特定テナント3社)

主な評価項目

I 一般管理事項

- ・毎月 CO₂ 削減推進会議を開催し、積極的な改善策の立案・実施及び効果検証を実行
- ・徹底した計測計量によるコミッショニングを実施

II 建物、設備性能に関する事項

- ・省 CO₂ 技術の導入
VAV・VWV、大温度差システム、LED 照明、昼光利用照明、太陽光発電、雨水利用、節水器具、屋上緑化など

III 運用に関する事項

- ・空調時間、室内温度を考慮した的確な空調設備運用
- ・照度点灯時間、照度条件の適正化
- ・きめ細かなメンテナンスの実施

事業所の概要

・東京スカイツリータウン(以下、「本施設」という)は、634mという世界一の高さの電波塔である東京スカイツリー®を擁する大規模開発である。

・本施設は、開発の理念として「水と緑と省 CO₂ の情報発信ステーション」を掲げ、商業施設主体の開発でありながら、テナントも巻き込んだ街ぐるみの省 CO₂ 推進を目標とした。

・2012年5月のオープン以来、開発理念を実現させるために CO₂ 削減推進会議を毎月開催し、本施設的环境負荷削減に向けたエネルギーマネジメント活動に取り組み、CO₂ 排出量の削減などの成果を挙げている。

事業所における環境負荷低減の取組

1. 建物の省 CO₂ 技術と安全安心まちづくりとの融合
 - ・高い断熱・遮光性能(東京スカイツリーイーストタワー®)
 - ・共用部を中心としたLED採用
 - ・太陽光発電
 - ・屋根雨水の貯留と有効利用
 - ・地域に開かれた「緑の丘」の創造
2. 徹底した計測計量・データ収集分析
 - ・全店舗・オフィステナントのエネルギー計量
 - ・クラウドを利用したデータ収集システム
 - ・テナントへのエネルギー見える化
3. 建物とDHCの連携による街ぐるみのエネルギーマネジメント
 - ・エネルギー管理体制の構築
 - ・CO₂ 削減推進会議によるエネルギーマネジメントPDCAサイクルの実施
 - ・店舗の従量料金制度の導入

事業所外観写真



取組のイメージ図

